

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	地域の自治会の一員として活動している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	火災の通報が近所の方にもいくようにして、協力している。また、前家の方には火災時にはグループホームの門の開放をお願いしており、訓練時には一緒に訓練に参加していただき、門の開放、避難の協力、入居者の見守りを行っていただいている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議で屋外で過ごすことが好きなケースを紹介して、理解を求め、話しかけてほしいことなどをお願いしている。これからも外部の方からの支援を継続していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者、職員は地区の会合に関わり、地域の気になる方の状況について民生委員や公民館長に話を聴いたりしていきながら、安全確認に訪問したりしている。	○	地域のお年寄りへの声掛け、話しかけを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	個々が自己評価を行い、職員全員で集り、評価をまとめた。評価をすることで自分自身を見直すことができた。外部評価の結果をミーティングで報告して改善にむけて努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事業所サービスを報告し、評価や助言、要望をいただいている。助言などがあつたら、検討を行い、改善や取り組みを行い、次回に報告してサービス向上にもつながっている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、グループホーム入居者の状況や町内の認知症のかたの状況を連絡しあっている。また、台風の接近が予想されると連絡を蜜にして、入居者の安全確保に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	「地域福祉権利擁護事業」及び「成年後見制度」に係るリーフレットを玄関に掲示している。管理者が研修に参加しているだけで、全職員は理解していない。そのために必要時に支援できる体制が万全とはいえない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、言葉使いで気になるようなことがあればその場で気付かせるようなこえかけをしたり、ミーティングで職員全員に己の言動を振り返ってもらい、改善するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に時間をいただき、説明を行っている。特に利用料金、事業所で出来ること、出来ないことについて説明し、医療面については、家族の希望をお聞きして緊急時については説明を行い、同意を得ている。また、ホーム生活のなかで起こりうるリスクについてもお話をさせをさせていただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から、その思いを察し、ミーティングで話し合い、職員全員がその思いを察する努力を行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各担当職員が個々の方のグループホームでの暮らしぶりやエピソードなどをお便りしている。健康状態は管理者が随時家族へ報告して、受診すること、受診結果も家族へ報告している。アルバムを各自居室において、家族が自由に見れるようにしている。	○ 家族へのお便りは、とても好評で、家族が職員を身近に感じてもらえるようになった。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問された時に現状をお話して、要望などをお聞きしている。ご家族からの意見や要望などは、ミーティングで話し合い、反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を月1回開催し、意見を聞くようにしている。また、日頃からコミュニケーションを図るように心がけ話しやすく出来るようにしている。	○ 定例会議は3時間ほど時間をとって話し合いが十分にできるように努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床、就寝は個人の希望や身体状況を考慮して、職員に無理がかからない時間を決めて対応している。職員体制に余裕はないので入居者の状態変化やゆとりあるケアのために時間外勤務で対応することもある。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動については、理事長と管理者が十分に話し合っ、なるべく馴染みの関係が維持できるようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	なるべく、多くの職員が事業所外で開催される研修が受講できるように計画をたてている。	○	資格取得に母体が全面的にバックアップして、資格取得を促進している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	地域の同業者と定期的に話し合いなどの交流会を開催している。又、関連施設で月1回集り、情報交換や問題点などを話し合っている。	○	できるだけ、多くの情報が得られるように積極的に参加していきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員同士の人間関係について、把握している。研修会に参加するときは、関連のグループホーム(6ヶ所)とできるだけ一緒に行くように準備して、そのときをチャンスとして、自分たちの思いを他の施設にも聴いてもらったり、自分を見つめ直す機会となったりしている。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の資格取得に向けた支援を行っている。理事長自身もケアする立場で入居者に接している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居の相談があったら、ご家族にホームを見学していただき、入居者の生活を見ていただきながら説明を行っている。また入居の理由や心身の状況生活状態をお聞きして、それとなくご本人に面談して、お話の中から思いを把握するときもある。		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	ご家族、ご本人に事業所を見学していただき、できるだけ安心して入居できるように希望を聞きながら、事業所として、どのようなことが対応できるか話し合っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談があった時、ご本人の思い、ご家族の思いを把握してみんなでご本人を支えていきたいとご家族にも協力を求めながらケアを行っていくことを説明している。	○	いつでも、ご本人を職員、家族、地域で支えていくことができるように努力している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見学にきてもらい、居室に案内したり、他の入居者と対面していただいたりしてホームの雰囲気を感じていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であり、経験から助言をいただいたり、気付かされたりすることも多い。そんな場面を引き出すことができるように材料となるものを準備したり、こえかけをしてしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いと、その思いが実現できた後の様子をきめ細かく家族に伝え、家族の力のすばらしさを家族に気付いてもらえるように努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の良いエピソードを積極的にお話して、面会時には笑顔で面会できるように配慮している。行事などには、必ずお便りで出席や参加をお願いして来訪の機会ができるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔見知りになれることを目的に、地域のお祭りに出かけていたり、地域のお祭りをホームに迎え入れたりしている。昔なじみの人達がくらししている地域にでかけ、お互いの健康を気遣う機会を支援している入居者もいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の会話は少ないが、どの方も省けないようで、テーブルは全員が向かい合う形が良いと入居者の強い希望があった。ソファの配置などで一緒に過ごし、助け合う姿も、時には見られている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	母体が病院であり、入院加療が必要となり、退去される方がほとんどである。入院中には時々、訪ねていき、ホームの様子をお話したり、励ましたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向を把握したり、誕生会などの行事に家族が来て下さったときに入居者が元気だった頃の様子を伺うことにより本人を支える手段が見えてきたりする。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にお話できる範囲で今までの生活をお聞きして、入居してから、場面場面でゆっくりとご本人から、昔の話の聞いたり、誕生会などその方が主役となる場面で家族から昔の親の様子をはなしていただき、その方を称えることができたりする。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者のことで気付いたことや感じたことは、連絡帳や口頭で申し送り、職員全員が共有し、ケアの改善ができるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聴き、職員全員でカンファレンスを行っている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会議で個々の入居者について、意見交換を行っている、状態に変化が生じた時には、ご家族の要望などを十分に検討して見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子やエピソードなどを記録し、気になるような事柄は連絡事項にきこゆうして、職員全員が確認できるように徹底している。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診は、家族の事情などでほとんどグループホームが送迎を行い、個々の満足を高めるように努力をしている。また、家族ではできないことでも相談していただければ、検討してみて、グループホームが柔軟な対応を行うこともできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員のメンバーは民生委員や消防団部長などから構成されており、それぞれの立場から意見をいただいたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の支援は受けていませんが、個人的に交渉して理髪店の出張により、散髪を行ってもらっている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日向市地域包括支援センターとの協働はほとんどないが、東郷町地域自治センターの福祉保健グループの職員が運営推進委員のメンバーなので相談や意見交換ができています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。ほとんどの通院はグループホーム職員が行っているために、かかりつけ医と良い関係ができています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が精神科医師のため、すぐに相談が可能であり、適切な指示や助言を得ることができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。また、母体が病院であるために病院の看護師も入居者のことをよく理解しており、確実な連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、主治医、ソーシャルワーカー、家族と意見交換をしながら、する機会をもち、早期退院につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時時の対応について、同意書があり、重度化した場合は家族、医師、管理者を交えて話し合いを行っている。話し合いがあった後も家族の気持ち、本人の思いに変化がないか確認を行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の気持ちを大切にしながらも、グループホームでできること、できないことを説明し、急変した場合は、医療機関がすぐに対応していただけるように連携をとっている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所へ移られた時は、支援の内容、注意が必要な点について情報提供し、これまでの生活が継続できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの時に日々の関わりの中で気になるようなことがあったら、管理者がその都度改めてもらうように指導している。日々の関わりは入居者の誇りやプライバシーを損なわないように接している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が先回りして、ことをすすめることがないように、十分に、その方が理解できるような言葉かけを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、一人一人の体調、習慣に配慮しながら柔軟に対応している。入居者の重度化、職員の勤務状態でなかなか個々の方が主体となった支援は不足しているが、週1回入浴がない日をつくり、個室の掃除など、ゆっくりとした時間がもてるように配慮している。	家族などの面会時や外出時には時間を気にせずゆっくりと家族と過ごすことができるような支援体制ができています。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の思い、家族の支援を大事にして、家族がホームで髪をカットする方、家族と出かけて、行きつけの美容院でパーマをかける方など、また、長めの髪を好む方についてはご本人の思いを優先して、ご本人が少しカットする気になるまで待ち、長くなった髪は乱れないようにカチューシャでまとめおしゃれにすることで美しさを保っていただく。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝いをするのは非常にすくなくなりましたが、後片付けを毎日自分の役割や職員がたいへんだらうからと手伝ってくれる。また、全員が向かい合わせで食事をして、職員も介助しながら、自分も持ってきた弁当と一緒に食べ、懐かしい話題で話が弾み、楽しい食事になったりする。	食事を楽しむということは、楽しく食べるということも大事であろう。食事での会話が楽しいのも良い事だし、向かい合って食べるということで、異変にも早く気付くことができ、安全な食事ができている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草、お酒を好まれる方は現在居られない。家族が本人の好む食べ物を持ってきて、自室で仲良く食べるのは、持病に支障がない限りは大事にしている。全員が甘い物が大好きであるが、糖尿病の方には気付かれないように量で調整している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	全く尿意がない方も、一日1回はトイレに誘導して、タイミングがあった時には一緒に喜び気持ちよい排泄に感謝の言葉を言うようにしている。定時にトイレ誘導が必要な方が5名おられ、日中は布パンツに尿とりパッドで過ごしていただいている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水曜日以外は入浴日となっており、入浴時間はきめられている。現在入浴を拒否される方居らず、皆さん入浴を楽しみにしておられる。入浴は一人ずつであり、個人個人の湯加減を把握しているので、その方が好まれる湯加減で入浴できている。浴槽につかる時間は本人に尋ねながら行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はそれぞれのリズムがあり、自室でゆっくりと休まれる方もいれば、ソファでくつろいで過ごされる方もおり、その方の希望や体調にあわせて休んでいただいている。就寝時間は皆さん、早く休まれるものの良眠できている。なかなか眠れない時は離床してもらい、しばらく一緒にココアを飲んだりして無理に眠らなければならないようなケアは行っていない。		
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの能力を把握して、出来そうなことはお願いをしてみている。梅干づくりなど、今は出来なくなっても、経験したことには興味を示し、紫蘇を少しちぎってみたりして参加する様子がみられる。「食器拭きはわたしの仕事」と率先して、作業をしているかたなどには「あなたがいてくれて嬉しい、ありがとう」と毎回感謝の言葉を掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族が管理している。お菓子など嗜好品を買うくらいはもっているかたもあり、受診などで出かけた時に飴玉を買うこともある。必要な物がある時は家族に連絡して同意を得たら、ホームの立替えで対応している。また、年1回、大型店へ皆で出かけ、洋服などを自分で選んでいただき購入できる支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換やストレス発散で外出する方もおられるが、入居者の重度化で限られた人数の方だけである。歩行器で屋外に出かけることが出来る入居者に対して、段差の改善などを行い、自由に屋外への行き来が出来るようにした。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の力では不可能なことはグループホームに相談してもらって、職員で検討し勤務の調整を行い、できるだけ希望に添うことができるように支援している。	○	家族の結婚式への参加、お葬式への出席にはご本人のことがわかっているグループホームの職員が、介助者として付き添い、好評である。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の能力があれば、いつでも電話は可能である。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人の都合のいい時間にいつでも訪ねてきていただけるような配慮をしている。面会の場所は家族やご本人の希望で対応している。簡単なおもてなしを行い、ゆっくり、気兼ねなく面会ができるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはならないと職員全員が認識し、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の建物には、鍵はしていないが、門は国道に面し、交通量も多いため、一步でたら重大事故発生のリスクが高いので施錠させていただいている。家族もこのことを心配している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間の伝達やホールには見守りの出来る職員が必ずいるように配慮している。また、ベットからの転倒のリスクの高い方には、離床センサーを設置して、本人の行動をいち早くキャッチできるようにしている。夜間帯は、頻繁に巡回を行って、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は(包丁や洗剤等)、職員が統一して、保管場所に収納している。薬庫には鍵をして、厳重に保管している。裁縫などをする時は職員が付き添い、針の紛失がないように確認をおこなっている。はさみは、安全なものを使わせていただいている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故報告書を記録して、原因と対策を検討し、事故防止に取り組み、離床センサーの設置や誤嚥の恐れがある時はすぐに検討して最良な方法で食事摂取ができるようにケアをおこなっている。服薬については、名前を呼んで薬を渡すことを義務づけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は、救急蘇生法の勉強会に参加し、緊急時の対処法を学んでいる。また、緊急時のマニュアルも作成して、確実に連絡などの対応が出来るように準備している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日向消防署、近隣の方、近くのグループホームの協力を得て、通報訓練や避難訓練を定期的(年2回)に行っている。また、水害を経験しているので、台風接近時の対応をチェック式にした計画書を作成している。台風接近時には地域自治センターや消防、警察との連携がとられ、母体である病院の協力もあり、早めの避難ができています。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ベットの立ち上がりで転倒事故が発生したので、離床センサーを設置することで以後は事故を未然に防ぐことができている。また、屋外への出入りがある方に対しては、家族へ転倒の危険性が高いが抑制すると、イライラとストレスが行動障害となって現れることを説明し、ご理解をいただいた。	○	なぜ、転倒の危険性があるのかを職員で検討し、段差が少しでもなくなれば、、、。段差があることに気付いてもらうことができれば、、、など、知恵を出し合い、自由な行動で支援することができている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックは、出勤者全員がわかるように掲示し、異常が見られたら、朝のミーティングで申し送っている。変化等、気付いたことがあれば、直ぐに主治医に報告して、受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録(受診の記録)に処方箋がとじてあり、受診時に薬の処方に変化があった時は、日誌の連絡事項に記載し職員全員で共有している。また、薬は呼称して、渡したり、服薬介助を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材に野菜を多く使ったり、10時の牛乳は黄粉牛乳を提供している。水分摂取が十分に行えるような対策として、服薬を少しずつ介助しながら、水分を回数多く飲水していただいている。また、トイレでの排便を支援して、自然排便を促している。しかし効果はまれで、下剤を定期的に使っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い、その方の能力に応じて、介助などを行っている。傾眠状態で意思疎通が出来ない方に対しては、一日2回口腔内の清拭を行って保清に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○	外出から帰ってきたら、必ず手洗いを行い、うがいのできる方にはうがいを促している。手拭きは、各手洗い場に全てペーパータオルを準備して、タオルからの感染を防いでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	簡単に持ち運びが出来る三段ボックスを持ってこられる方が多いものの今まで使っていたダンスを持ってきて下さる方もおられる。若い頃の思い出の品は家族にとっても大事なもののようで、持ってきて下さって居室に飾ったりしてお話が弾んだりしていますが、しばらくすると持って帰られます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ドアや窓の開閉はこまめに行っている。温度計、湿度計が各所に設置しており、職員はいつもきにするようにしている。ホールには消臭器を設置して不快な匂いに対応している。トイレは換気扇と消臭剤で悪臭が出ない工夫をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋外への出入り口の段差を少なくしたり、色の違いで、段差があることを判断していただくようにして自由な行動が出来るようになった。また、浴槽が深い作りだったので、底上げ台を設置して、安全に入浴できるようになった。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が理解できない方、排尿間隔の近い方について、足元灯でトイレがわかるようにしたり、居室をトイレ近くにできないか検討してみるなど、その方の不安に対処して生活がスムーズにいくようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外に出て、周りの出来事に興味を示しそのことを日課としている入居者のために、ベンチを準備してみたところ、外にいった時はいつもそのベンチに腰掛けて過ごされている。また、花壇には季節の花が咲き、母の日の花もいつまでも楽しめている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ご本人とご家族の関係の継続を大事にしています。どちらも大事にすることで、困ったことの相談などもあり、家族だけでは出来ないことでも私たちが少しだけ手を差し伸べることで実現し、新しい思い出が1ページ多くなって増えているのではないのでしょうか。また、毎月、各職員が家族宛のお手紙を書き、入居者のその月の身体状況やエピソードなどをお知らせしています。

地域の自治会に加入し、地域の一員として活動に参加しています。草刈り、神社のお祭りの準備、年行事への参加と大変ですが、グループホームの行事に参加があったり、台風時などはいつも気にかけていただき、心強い近隣の方々となっています。